

# 恵みと真理のニュース



2020年02月の一次 恵みと真理教会  
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## 【証】

神様は、聖書的な信仰観、価値観と共に正しい国家観、歴史観、安保観を持つようになしてください、政訓長教として献身しようとする希望を与えてくださいました。

私は、恵と真理教会で中高等部の教師として奉仕している青年です。神様は農業していたキデオンをお呼びして使命を与え、奇跡で使命を確信させたように、神様は私に、尊い使命を与えてください、恵みの摂理でその使命に対する確信を与えてくださいました。親から我が教会をとても愛して教会で熱心に奉仕する姿を見ながら、私も幼い時から、兄と共に熱心に信仰生活をしながら教会を愛するようになりました。私の幼い時から青年になる間、母が礼拝中心的に生活をすると見本を見せながら、どんなことがあっても主日は必ず守って主日礼拝と児童区域礼拝にも参席するようにさせました。したがって、私は主の懐と教会の中で主の愛と喜びを享受しながら育ちました。思春期に礼拝と奉仕が面倒で心が揺れるようになると、母と兄を通して、教会学校の教役者と先生を通して私を強くしてくださいました。その後、修練会で聖霊充滿を受け、信仰が成長して神様に礼拝をしながら楽しく奉仕することが出来ました。ところが、私の未来に対して否定的な考えが多くなり、サタンが働き始めました。学校成績が良くなって、心が不安になり焦った私は、“信仰生活は後にして、大学に入ってから熱心にすればいい”と思ってサタンの誘惑を勝てませんでした。平日礼拝に参席しなくて主日だけ礼拝を捧げ、勉強するから忙しいという言い訳をして、聖歌隊で奉仕している父と母の密かに逃げるような教会から出ました。ところが、以前よりも成績が落ちて学校の友達との関係も悪くなって私の自尊心が多く低下されました。何よりも神様の関係が正しくなることと、教会で礼拝と奉仕が生活の優先順位にならなければいけません。また、教会での礼拝と奉仕が生活の優先順位になることが大事であることを悟り、今まであやまった罪を悔い改めました。親の祈りと兄の勧めが大きい力になりました。学校の成績が下位だった私に父親は神様の国に入ることと学校成績は関係がないから、落胆しないで、力を出してくださいと聖書の御言葉で慰めて励ましてくださいました。また、兄も自分の経験をあげて神様を畏れ、委ねて愛するなら、神様が私のための道を準備して導いてくださると力と勇気を与えてくださいました。礼拝することと神様が、私の心に平安と大胆さを与えてください、知恵と英知を与えてくださいました。信仰と従順の生活に力を尽くすと神様は私の友達との関係にももっと良くしてください、学生会長の選挙に出て当選されるようにしてくださいました。学生会長の役割を遂行して、教会で奉仕する生活を通して、私は話が上手になり、任されたことに強い責任と使命を持つようになりました。続いて私は、信仰の意味を再び

立てて勉強する目的も神様の栄光のために、新しく思いました。その後、誘惑があるたびに御言葉の恵みと能力を受けて、よく対処して勝つことが出来ました。  
運動が好きだった私は、陸軍調教として勤務した父の影響を受けられ、国軍長教になりたい夢が出来ました。善い友達と共に学業に力を尽くして学校成績もよくなりました。長教になるため、学生軍事教育団 (ROTC) がある大学に進学することを目標で決めました。願う大学に志願するには成績が足りなかったですが、神様が下さった夢だと思って、神様の助けを信じて大胆に志願しました。全教の学生会長の経験もあって、また、神様が出すけて下さって学生部総合銓衡で学生軍事教育団がある大学にそれも奨学生として入学することが出来ました。当時、私は単純に職業として長教になる希望を持っていました。我が国の安保がどれほど危機なのか、国に対して正しい理解がなく、深く考えたこともありません。ところが、当会長の牧師の説教を聞いて正しい状況と認識と判断をするようになり、国家安保と教会の安全のため祈りました。ちょうど、その時、先輩たちが企画して、青年達に聖書的な信仰観と価値観を教え、正しい国家観と歴史観を持たせる 153 のホーリプロジェクト アカデミーが教会で解説されました。その、当時 20 歳だった私にこのような大きいアカデミーは大きい意味がありました。アカデミーを通して私は聖書的な正しい信仰観と価値観を持つようになり、神様の摂理で建てられた自由大韓民国に対する誇りと国家観と使命感を持つようになったからです。教会とキリスト教にとっても時代的な使命と責任になったことを自覚しました。  
悟らせてくださった神様に感謝し、学生軍事教育団の試験を準備しました。相変わらず礼拝中心の生活をしながら、熱心に試験準備をして、努力の以上の成績で 1 次、筆記試験を通過しました。そして、アカデミー教育を受ける途中で 2 次、面接試験の項目の中で比重が一番高い面接を受けるようになりました。長教候補者を先発する試験だったので当然、国家観と安保観に関する質問が多かったです。私の順番になって面接官が韓米同盟に対する自分の考えを聞きました。その先週、主日にアカデミーの重要性に関して話したので、私はその御言葉を集中して耳を傾けて聞きました。その、質問を受けた瞬間、驚き感激しました。その場で私は“あ！私の夢が確かに神様のビジョンである！と確信をして自信を持って大胆に話しました。結果は最終合格でした。私が、国軍長教になることが神様が下さった使命である事を初めて確信しました。しかし、瞬間サタンが私の心の合間に入って人本主義の考えをくれました。軍人という職業の特性とその中で特に経済的な面をみると“果たして、軍人の道を行くことが私の道なのか。”と思いました。神様は説教を通して恵みと感動を受けて神様の御心と栄光だけを考えるようにさせました。そして、軍長学生の先発銓衡に志願するようになしてくださいました。この制度は大学 4 年間、全額奨学金を受けて軍服生活の期間も 4 年を延長させるから長教候補生はほとんどが合格することを願う制度です。学生軍事教育団の入団試験が学校の内で競争があったら、軍長学生、先発試験は全国単位で競争する試験です。それで、試験に対する恐れと不安が出来ました。教会学校、奉仕を試験準備をするという言い訳をして疎かにしている時、青年達が直接に研究して作文を作成して特講をする 153 歴史強化教育課程が教会に追加で開設されました。試験準備のため私は関心がなかったですが、総

括チーム長をはじめ先輩達から勧められて最後の受講生として登録しました。献身に対する熱情がいっぱいだった他の青年達と共に我が国と教会のため祈って勉強をしながら私は使命でもっと充滿になりました。教育課程の中で、自ら研究して準備して、発表する科目がありました。私は長教を夢見ていましたので大きい主題である“国家観”を選択して、様々な主題の中で“ベトナム戦争 (越南の敗亡)”を選択して、レポートを作成して発表することにしました。教育目標を“ベトナム戦争 (越南の敗亡) から我が国が得られる教訓”と決めた後、自由越南が敗亡した過程と我が国の現実の状況を比較して研究しました。発表した字を完成した その週間に軍長学生の面接試験を受けるようになりました。学生軍事教育団、事件の時のように今回の試験もまた、153 力量強化教育課程”を勉強する中でお知ろようになりました。この試験も面接の評価が一番高かったです。それで、評価を待つ時間にとっても緊張になりました。私は、面接を準備したことを全部下ろして、その代わりに、聖書の御言葉をノートに書いて黙想しました。すると、生きておられる神様の御言葉が私に、平安と大胆さと勇気を与えました。三回実施した面接の試験の中で最後まで学生軍事教育団、試験の時のように国家観と安保観を評価する試験でした。各、受験者に問題が与えて 1 文くらいの文書を作成して発表しました。私が、受けた国家観と安保観に関する試験の主題門が“ベトナム戦争 (越南の敗亡) の課程に韓国が得られる教訓”でした。真に奇異な事でした。最終面接評価試験の主題門が私が、教会で青年達に発表するため準備した主題であった教育目標と正確に同じでした。試験紙を受けて問題を確認する瞬間、私の体に鳥肌が立て心がワクワクしました。すらすらと文章を書き流して面接官の前で自分を意見を自信を持って発表しました。軍長学生に先発試験にも合格しました。そして、私は二番目、神様が私を呼んで韓国の長教になり、国家と軍福音化のため献身するように使命を与えてくださったと思います。教会でも (越南の敗亡) を主題で作成した私の文書が優秀作で選ばれ、“153 力量強化教育” 終了式の時、多くの青年、教役者と教育生たちの前で直接に発表する栄光な機会が与えられました。このような過程おとして、私に新しいビジョンが出来ました。政訓長教になり、国軍長兵達に正しい国家観と安保観を与えてください、使命感を持つように教え、教育させると新しい希望を神様に与えてくださいました。そして、今回の冬、学生軍事教育団、基礎軍事訓練で神様の摂理で大隊長の職分を受けて退所するとき 197 名の 候補生の中で一等をして表彰状を受けました。恵みの上に恵みを与える神様に感謝捧げます。  
さて、きょうだいたち、私たちの主イエス・キリストが来られることと、私たちが御もとに集められることについて、お願いしたいことがあります。霊によってであれ、言葉によってであれ、あるいは、私たちが送られたという手紙によってであれ、主の日がすでに来たかのように言う者がいて、すぐに理性を失って動揺したり、慌てふためいたりしないでほしい。誰がどのような手段を用いても、だまされてはなりません。まず、離反が起こり、不法の者、つまり、滅びの者が現れなければならないからです。この者は、神と呼ばれたり拝まれたりするものすべてに反抗して高ぶり、神の神殿に座り、自分こそ神であると宣言します。(テモテ信徒への手紙 : 2 : 1 ~ 4) ハレルヤ!



## 【信仰コラム】

## 教えて悟らせる聖霊様

“...けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう...” (ヨハネによる福音書 16:12, 13)

人が得る知識を二つに大別すると肉に属したものと霊に属したことがあります。霊に属した知識は聖霊から得ます。神聖な知識の誠な価値は肉に属した人は知らず、霊に属した人だけ分かります。聖霊様は聖徒達が神聖な知識を持つことができるように働いてくださいます。聖徒を教えて導いてくださる聖霊様について調べてみます。  
第一、聖霊様は聖徒に神様の子になったのを知らせてくださいます。イエスキリストを信じて生まれ変わった人は神様の子という身分を得ます。この身分は人間の功労や努力によって得られるものではありません。人間の血縁関係によって得るのでもありません。神様から生まれた者達、聖霊で生まれ変わった者だけが神様の子であります。(ヨハネによる福音書 1:12, 13) 神様の子はキリストと共に相続を受ける者になります。その相続は神様の国で享受する栄光と福楽を言います。将来に享受する相続に含められたその栄光に比べるとこの世で受ける苦難は無視しても良い程です。聖霊様は聖徒達にこれを認識して実感するように教えられる悟らせてくださいます。“アバ、父よ”という呼称は神様と聖徒の間には実質的な父子関係が成立されたのを表わせるので

す。聖霊様は私達が神様を‘アバ、父よ’と呼ぶようにさせ、私達の魂が私達が神様の子であることを認識して実感するようにしてください。(ローマ書 8:14 ~ 16)  
第二、聖霊様は私達がキリストの中においてキリストが私達の中におられるのを知らせてくださいます。イエス様は聖霊様を‘もうひとりの助け主’だと指称なさいました。(ヨハネによる福音書 14:16 ~ 20) 聖霊様はイエス様と同じ愛と能力と性品を持たれた助け主でおられます。イエス様と聖霊様は三位一体でおられる神様の各位でおられ、本質において同一であります。五旬の節に聖霊の充滿を受けた弟子達はイエス様が助けぬしに対して言及なされた御言葉を実感しました。彼らの心が喜びに喜ばしい言葉で全て形容できませんでした。神様の座の右におられるイエスキリストがまた、今私達の中におられます。これは神様の理解を超越する神様の属性であり恵みです。聖霊様はこの事実を聖徒達が悟って毎日主と同行する生活を生きるようにしてください。キリスト人とはキリストの中に居てキリストが自分の中に居る人です。このように生きるようにして下さる方が聖霊様です。  
第三、聖霊様は私達に神様の御言葉を思い出すようになさせて真理を悟るようになしてください。イエスキリストは弟子達に言われる御言葉がたくさんでありましたが、留保なさいました。その理由は弟子達の理解が及ばず、これを全て耐えられなかったからです。そうしてこのように言われました。“わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない。けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれ

るであろう”、“...しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう”。聖霊様は私達が聞いた神様の御言葉を思い出させてくださり、御言葉の意味を悟らせてくださいます。私達は真理の中に導いてくださいます。  
第四、聖霊様は聖徒達に将来の事を知らせてくださいます。聖霊様は神様が既に啓示なされた御言葉の中で将来の事を知らせてくださいます。(ヨハネによる福音書 16:13) 聖書の予言は聖霊様の教えなしに正しく理解することができません。聖霊様は神様の計画と目的について教えてくださいます。そうして聖徒達が未来に対する明らかなビジョンを持って生きていくように知らせてくださいます。聖霊様はいかに生きていくのが私達の将来のため知恵を持って生活するのかわらせてくださいます。従って、聖徒は自分の将来のことを聖霊様が知らせてくださり、導いてくださるよう求めるべきです。  
皆さんは、聖霊様が教えられて悟らせて導いてくださる恵みを日増しにより深く豊かに体験するよう祝福します。

「テヨヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

## 聖書的な福を祈る行為



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“福を願う祈りと行為、または、福を願う信者”という言葉は一般的でも否定的な意味で認識しています。この言葉がクリスチャンに関連するときには、悲惨の意味で使われています。その理由は、この用語が持っている意味と違って誤解されて、偏向された意味で使われているからです。祈福という漢字は福を願うことを意味します。“祈福”という御言葉を聖書的に解くと“神様に福を願う行為”という意味です。一に曰く、神様の恵みと助けを求める行為です。宗教という言葉で辞書で解いてみると“神や絶対者を認めて一定の様な様式のもとでそれを信じ、崇拜して心の平安と幸福を得ようとする、精神的な文化の体系だ”としました。そうしたら、福を求める祈りの行為は宗教的の骨に解党する行為だと言っても過言ではありません。祈福行為が除外された宗教とは宗教とう呼ぶのではなく、哲学思想や倫理しそつと言います。神の助けを求めない人には宗教が無意味なことです。ところが、キリスト教会の一部では、祈福行為という言葉で否定的に思って、祈福行為を悪く考える理由は何でしょうか。一つは自分の修養、人格陶冶、検診と善い行為がキリスト教の核心だと思つたからです。ほかの一つは自分の欲望を成就するため手段と方法を考えず、福を願う人と、自分がやるべきことをおろそかにして福を求める人に対する拒否感からです。祈福に対して、誤解と偏向された考えを持たなければ、嫌悪して排斥する福を祈る行為と求めて勧めるべき福を祈る行為を分別することが必要です。そうするために、私たちが必ず知るべきことがあります。

### 初めは、人生に福を与える方が誰なのか知るべきです。

これを知るなら、神様の示に依存する道しかありません。神様は作られた万物を通して優れた知性と限りない能力を持った神御自身を啓示しておられます。誰でも謙遜な姿勢で宇宙万物を調べてみると万物が決して、偶然に存在するしかない事実を認めざるを得ません。神様が作られた世界だけでなく聖書を通して御自身を明らかに啓示なさいました。このすべての世界が、神様の創造のもとで村債されたということを明らかにしています。神様が自分の形で作られた人にこのような世をくださいました。そして、人の礼拝を受けて人と交際することを大喜びされました。しかし、サタンに惑わされた人類の先祖が神様の御言葉に従順し、善悪を知る木を取って食べたから、犯罪者になりました。神様の前で罪を犯した人生は聖なる神様と完全に交通することができなくなって、滅亡に至る審判を受けるしかない運命になってしまいました。しかし、神様は、人間の代わりに贖う、救い主を送られることを予言者たちを通して何度も様々な形でお話しました。神様の時になり、神様がお一人の子をこの世に送らせてました。

イエスキリストです。イエス様は聖書に予言された通りこの世に生まれ生きて死なれ復活されました。そして、昇天して神様の右の座におられます。したがって、イエス様を信じるすべてのものを救う救い主になりました。聖書には神さあぬ処罰でこの世の終末と最後の審判なされる救い主になられました。聖書には神様の処罰で来られるこの世の終末と最後の審判、そして新しい天と新しい地、新しいエルサレムの到来と聖徒達の復活についても啓示されています。このように自分を啓示された神様の以外にほかの神が存在しません。それで、聖書に啓示された神様、創造主であり、救い主で、審判する主である神様、イエスキリストの神様の以外にほかの神に何か求める福を祈る行為は排斥することであり、偶像崇拜で巫俗的な祈福行為です。巫俗的な祈福行為をする方々の中でたとえ、平安で豊かな生活をしている者達がいても、実相は偶像に向かう福を祈る行為事態が不幸なことです。このことを悔い改めない以上、その終末は永遠な滅亡しかありません。

### 第二は、創造主であり、救い主で裁きの方でおられる神様を仕える人は神様に、積極的に福を求めなければなりません。

神様に福を求め、助けを求めることが、信仰の出発であり、核心です。神様が下さる福を受けなくては決して、神様の助けがないと、決して勝利した人生を生きることができないことが信仰の基本です。万一分がクリスチャンだと言いつながら、神様が下さる福を求める心がなくて、甲斐様の助けを求める心がないなら、その人は真実な信者ではありません。人は神様の被造物です。神様を仰ぎ生きる時、美しくて幸せな姿を回復するようになります。“私は、神様に福を願う幼稚な福を求め祈りはしない。”と言いつ、自ら成熟な信者と考えるのは神様を知らないからです。イザヤ40章にはこのように記録されています。“ヤコブよ、なぜ言うのか。／イスラエルよ、なぜ語るのか。／「私の道は主から隠されておる／私の訴えは私の神に見過ごされている」と。(27節) “神様が私の事情をどう知るのでしょうか。神様が私の叫ぶ声をどう聞くのでしょうか。？と考えることは神様を喜ぶことではないことが書いてあります。永遠な神様、地の果てまで創造した神様は私たちの求めを聞いて、疲れたりすることはないと誓いました。むしろ、神様を仰ぐ者を喜んで、彼に能力を与えて、向上し、活発に生活するようとおっしゃいました。“しかし、主を待ち望む者は新たな力を得／驚のように翼を広げて舞い上がる。／走つても弱ることがなく／歩いても疲れることはない。(31節) そうして、聖徒達は神様に積極的に福を求めべきです。

### 三番目は、神様にどんな福を求めるか具体的に調べてみましょう。

一番目は、いつでもどこでも相変わらず、神様を畏れ、愛し生きる福を求めなければなりません。二番目は聖霊の賜物と実りを豊かに受ける福を求めなければなりません。知恵の言葉、知識の言葉が信仰、癒やしの賜物、奇跡を行う力、預言する力、霊を見分ける力、異言を語る力、異言を解き明かす力が与えられています。”(コリント信徒への手紙 12: 8~10)

“奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に、教える人は教えに、勧める人は勧めに専念しなさい。分け与える人は惜しみなく分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。”(ローマ書 12: 7、8) があります。聖霊の賜物は福音を能力を持って伝えるようにして、正しく分別と判断をするようになります。自分と違う人が治癒の恵みを体験させます。聖霊の実りとして、“これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。”(ガラテヤ信徒への手紙 5: 22、23) があります。このような品性が言行を通して、表されるときに神様に栄光を捧げるようになり、教会で徳を及ぼします。

三番目は、礼拝生活と教会で受けた生活を行うために福を求めるべきです。四番目は、多く人をイエスキリストに導くように福を求めるべきです。“悟りある者たちは大空の光のように輝き／多くの人々を義に導いた者たちは／星のようにとこしえに光り輝く。”五番目は、経済的に豊かになる福を求めべきです。“神は、あらゆる恵みをあなたがたに満ち溢れさせることがおできになります。こうして、あなたがたは常にすべてのことに自足して、あらゆる善い業に満ち溢れる者となるのです。”(コリント信徒への手紙 9: 8) と言われました。六番目は、健康な心と体で生きよう福を願う求めます。七番目は、患難と試練を克服する福を願わなければなりません。“私のきょうだいたち、さまざまな試練に遭つたときは、この上ない喜びと思いなさい。”(ヤコブの手紙 1: 2) と誓いました。この理由は艱難と試練を忍んで勝つものが受ける栄光が大きいからです。

神様の助けを求める福を祈る行為は信仰生活に必修的な要素です。聖書に出てくる昔の族長たちは神様の福を求めました。予言者達も使徒たちも神様に福を求めました。神様は彼らに福をくださいました。神様に福を恵むことが間違つている信仰ではなく、神様に福を求めないことが間違つた信仰です。その心に高慢と心がかたくなになっているからです。正しい福を求め祈り行為を勧めなければなりません。この世のすべての人が全てが、イエスキリストの神様に福を求め人にならなければならないです。人は誰でも、神様が福を切に望みながら、神様の助ける手を求める信仰を持つべきです。聖徒、皆さんは、“私は、神様が下さる福を求めない限り、幸せなくて、神様の助けを受け入れないと成功的な生活、勝利の人生を生きることが出来ません。”という信仰を持って、七つの種類の福を切ない心で愛し求めて祈ることを願います。